日刊
磐城日日

發行所
株式會社 磐城日日新聞社
福島縣小名浜町諸廻51
電話 219番
振替口座仙台31355番
編集人 高瀬霞
印刷人發行人 長瀬芳郎

失業救濟事業について町當局に望む

縣會議員 土木民生常任委員 大井川正巳

【既報】縣會出席中の大井川縣会議員より長瀬社長に速報された第一信に引きつづき標題の件につき第二信があつたので町民各位に公開の為ここに掲載する

大井川縣議

一、小名濱町自由労働者の失業救濟は緊急の問題にして六月縣會で川崎勞働部長、樋口職業課長等と協議懇請の結果不取敢小名川改修工事を準縣費で施行する様約束を致し當時縣會より長瀬勞組長宅に通知し、一方町当局には至急縣當局に陳情書提出する様通知を致して置きました、不肖土木常任議員として小名浜出身の立場より現下の失業狀況の重大性にかんがみ急速に之が解決すべく八月縣會に於て縣當局に促進方を要望致しました、川崎労働部長はまだ町当局より一回も申請が無いので困つて居ると申されましたので廿四日縣會も終了するので歸省の上町当局と會見其の措置を講ずべく再々縣當局とも實行方を依頼して役場當局の申請を待つて居る様な次第です本日廿三日水野町長が藤原川、矢田川改修工事の陳情に民主党控室に參られましたので好機逸すべからず失業救濟事業の促進陳情を縣當局に提出する様懇談致しました、水野町長も直ちに川崎労働部長に陳情され部長より小生に其の旨報告がありました、失業對策は現下施策の重要案件で経濟的にも思想的にも一人の失業者があつても町の発展はあり得ないのです

土木関係では現在失業對策事業として二十一ヶ所に一日一、六〇〇名の労働者を使用中であります

失業對策と自由労組の健全なる発達は地方自治の振興上極めて重大でありますので町當局初め一般町有志の理解ある指導と組合員の自覺に俟たなければなりません、町當局の積極的運動展開を期し町民の失業者救濟に御努力あらん事を切望するものであります

八月廿三日　於縣會議事堂

磐城日日新聞社御中

鄕土出身歌手 山本ハル子さんの獨唱會

主催 小名浜文化協會
後援 小名浜第一小学校 磐城日日新聞社

小名浜町出身山本ハル子さんは、全町第一校に奉職中から音樂家としての天才的才能を認められていたが、藤原歌劇團に入團、三年有余にして早くも、アルト歌手として前途を期待されているが、この度び錦を飾つて歸郷、二十九日午後七時より小名濱劇場に於て第一回の獨唱會を開くことになつた、主催は小名浜文化協会、後援は磐城日日新聞社及び第一小學校、伴奏は藤原歌劇團メンバー、會員券は五〇円当日賣は七〇圓である

小名濱中学の盛大な記念行事

展覧會・バザー・野球戰

小名浜町立小名浜中学校では同町民の後援により第四期増築を完成去る七月二十四日竣工式を擧行したがこれが記念のため新築校舎の狀況、生徒の成績參觀を希望すると共に左記の通り行事を行う

記

一、展覧會及バザー
自八月二十六日前九時
至八月二十七日後四時

二、野球戰
在校生對卒業生
八月二十七日午後一時より郡中學校野球大會優勝披露

5分間教室

レコード

値段はむかし一枚一円五十錢であつたが現在十吋標準盤で百五十圓、正に百五十倍の値上りである

レコード會社は戰前、戰後を通じてコロムビア、キング、ポリドール、テイチク、ビクターの五社しかない、洋樂はビクターとコロンビアが代表的だが、ビクターは十二吋で黒が二百五十圓赤が最低二百八十圓から最高三百三十圓までの間に四種類がある

蓄音器

蓄音器は高くてなかなか手が出ない、ビクターのラジオ・エレクトローラ（コンソール型）など十一万圓もする、卓上型ラジオ兼用電蓄の最低がコロンビアで三万三千圓、ビクターが三万九千圓、ゴロンビアにはポータブル（六千五百圓）もある

抽斗型のちよつと氣の利いたのがビクターで九千八百円ぐらいする

随想 二昔物語（六）

茨玲之助

小名濱に「キッツアシ」ということばがある、「さし木」という意味で、よそから轉住して來た人に對して土着の人々が使う一つの輕い悪口であるが、これ程、よそから來た人の心を傷つける者はないあだなとか悪口とかの中には、一つの愛稱となるものとそうでないものとがある、同じあだなでも受け取るがわの感じ方で違うものはあるが、概して、その人間の自認し、嫌悪し、なるべく人にかくそうとしている欠陥や短所をあだなや悪口の材料にすべきではない、いう方は何の氣もなく輕い氣持でいつたとしても、いわれる方はそうは受け取れない、ぐさつと胸に匕首を突き刺されたように感ずるものである「ピッコ」とか「コジキ」とかがそれである、それと同じ意味で、「キッツアシ」ということばはいう方は輕い意味でも聞く方にとつては容易ならぬ侮辱である「キッツアシのくせに生意氣なつ」ということばが、轉入者に與える影響は深刻なものである「知らぬ他國で嬉しいものは、人の情と國なまり」故郷離れて幾里或いは幾百里、望郷の想い堪えがたきをこらえ、どちらを向いても知らぬ人ばかりの中に身をおいて、それでなくても氣兼ねをした控え目の生活をしているつもりなのに、唯單に、もとからいたというだけの優越感で、眞向から「キッツアシ」という蔑稱をぶつつけるということは、腸のふるえる程の口惜しさを感じさせないではおかないであろう「この町の為ならば」と感ずる代りに「今に見ろチキショウ」となつたら結果は一体どうなるのか、反目紛擾はえてしてこういう所に根をおろし易い、地方民性の包容力の大小は、將來の發展に大きな意味と影響があることを忘れてはならないと思う、大体バカみたいな話をすると有史以前にさかのぼつたら、キッツアシでない人間なぞ一人もいないのだ

又余談になつてしまつたが、小名浜には所謂悪口雑言に類する方言が非常に多かつた、「何をつ、コンチキショウ、カッテーボー、クタバレ、ホイド、イヌメ、ナクサレ、コンドロボウ、」これは、單語を羅列したのではない、何やら古語に似たようなこれは、一連の悪口なのである「何をつ、この畜生、癩病めつ、死んでしまえ、乞食めつ、犬めつ、行つてしまえ、此のどろぼう」ということとなのである、一体いわれた人間はどんな事をしたと思し召す、これは、こどもが庭を掃かないで遊んでいたために、怒つた母親の與えた叱責なのである、まさに「ギョッ」ではある、勿論全般的な話でなく、一部の限られた人達だけであつたが、男の方は相当廣範圍に使われていた、時によつてよそからいいことばがまぎれこんでも、怒濤のような小名浜ことばにまきこまれて、ミイラとりがミイラになるという状態だつたのである、學校などで、教師の權威を以て標準語を強制しても、いつかなことばは良くならない、うちに歸つて「君」「僕」などとやろうものなら大變だ「おうおう、このガキは氣でもちがつたんでねいか、」

「やめてけろ、そんなエペエことば、むなくそわりい、おてんきがかわつつお」

である、これではことばの良くなりつこはない

ところが現在のことばはどうか、實に異常な進歩といわねばなるまい、もとよりこれは、東京遊學の子弟が多くなつたこととか、ラジオの普及とか、社會教育の向上とか、一般文化水準の高揚とか、という理由にもよるであろうが、水素ができた為に小名浜に出入りする人達のもたらした功績は沒する事ができまい、或る意味に於ては日素の人達はあこがれの對象であつた、或る時には洗練された教養が、或る人には文化的な生活様式が、或る世代にはポーズとスタイルが、或る時期には賃金ベースが、そしてそれからの混合したふんいきにあこがれることが無意識のうちに、水素の人達を、より好ましい手本のように思いなしたのである、それが手つとり早くことばの上にあらわれた、文化人たるの資格は先ずことばからはじまる、今まで郷に入つては郷にしたがつていたことばが、郷の方から變つて來たのである、勿論これは仕事の上の接觸で男と男の會話から變つて來たのも多いが、街頭や社會活動で、直接婦人層や商店や家庭に呼びかけたことばの集團的威力というものは大きかつたに違いない、つまりこれらの人々に應待することばとして、どうしても標準語らしいものを身につけなければならなくなつたのである、日素の人達も苦しんだに違いないし、町の人も困惑したに違いない、然し兎に角、或る程度までは標準語を目を白黒させずに使用もし、理解もできるようになつた、素ばらしい飛躍といわなければならない、然し、その他にも、疎開や引揚げによつて來た人や、トーキーの力も大きい事を忘れるわけには行かない

死んだ人々には慨く術もない以上
生き殘つた人々は、誰のこと、何を慨いたらいい？

日本戰歿学生の手記
きけ、わだつみの声
27日―30日
金星座上映

死んだ人々は還つてこない以上
生き殘つた人々は、何が判ればいい？

この映畫は誰が見ても、もう二度と戰爭はいやだ、どんな戰爭もいやだ、ということが感ぜられる、この映畫の中に、永久に失われた肉親親友、戀人の氣持は深刻に生き殘つた人々に訴え、死んだ人々は還つてこない、だが生き殘つた人々は眞實に戰爭の罪惡を子孫に傳える義務がある

この映畫は東大出版部にて編集、出版され全日本人を感動させた戰歿学生の手記「きけわだつみのこえ」の映畫化である、生きるべくして生きることが出來ず死ななくてはならなかつた數限りない失はれた若者の魂を生き殘つた人たちがどこまで正しくその眞實の姿を知つているだろうか？

超過供出は一・二五倍
麥價（一等）一、〇〇二圓
麥の補正と超過供出を 小名濱農調委でのむ

小名濱町農業調整委員会では二十五年産麥の補正と超過供出割當會議を二十四日警察署裏の會議室で開催し、事前割當の一、〇〇二石、補正減額六六六石、超過割当三八七石の線については六月以降の雨による被害の減收から相當の波乱をきたしたが結局は一應のむことになつた、なお今年産の麥價は大麥一俵當の中味が一等一、〇〇二円、二等九八二円、三等九四二円、四等八七二圓、五等八〇二圓小麥、裸麥、一等一、五四九円、二等一、五一九圓、三等一、四五九圓、四等一、三五九圓、五等一、二五九圓で新俵が三七圓、古俵が二三圓かますは新しいのが六四圓、古いのが三一圓である、なお超過供出の場合は一、二五倍加算して買上をするが五等麥については超過金は支拂わない

失業救濟を要請
濱通地區自由勞組

各地の自由労組は完全就労を要求して活撥な運動を展開しその動靜を注目されていをが小名濱町に本部を置く浜地通區自由勞働組合では二十四日組合長／神井昌[illegible]書記長[illegible]顧問小野幸次郎の外組合員十名が要請書を携行して町長に面接を求めたが町長が出張して不在のため助役に面會、失業者の救濟に關し要望した、これに對し長瀬助役は町長と相談しなければ決定しかねるが、小名川改修工事、第二中学校敷地の整地及び江名道路の切割工事に失業者を救済するよう善處すると回答した

仙台てハンスト決行
小名濱自由勞組長等

小名浜町定西長瀬大三氏（小名濱自由労働組合長）は去る七月十八日より元日本水素工業株式会社勤務の岡野盛雄氏（仙台市協英工業株式會社社長）の懇請により同社が東京鹿島建設株式會社より下請した青森縣上北郡大三澤町上久保三一の進駐軍宿舎の塗裝工事を友人十名と請負七月三十一日に完成、同行した一部のものは歸郷した[illegible]長瀬大三、[illegible]相川義一、佐々木富[illegible]今林賢一の[illegible]氏は仙台市の岡野氏方に止まり、岩切高等学校の塗装工事を引受け去る十八日に完了した處、賃金不拂のため二十一日午後四時半より仙台市役所前に立札を立てゝハンストを決行、断食斗爭に入つたとの知らせが入つた、社會党宮城縣連では應援を申出たが長瀬氏は飽迄、單獨斗爭を續けるとの決意を小名浜町の新田氏に傳えたので同氏は事態を憂慮し即日仙台に出發した

久 釜屋

盂蘭盆會（うらぼんゑ）①
鳩の巣　如鳩

磐城日日の記者君が來て、何か盂蘭盆の事を話してくれと云う、それはお寺様に頼むのが早道であろうと答えるといやいや畫家の見た『うらぼん』も意味が深いからと云われるので止むなく引受けることにした

さて、お盆様の事は、あまりにも一般の人が知つて居るしまた佛教の行事でも一番民衆的で廣く行われて居る事であるから、改めて書く必要も無かろうと思うが私もお盆様を迎える心で一杯の冷水を献げることにした

昔は旧の七月十五日と定まつて居たが、今では所によつてまちまちである

盂蘭盆とは梵語「ウルランバナ」の音をそのまま用いたので其の意味は倒懸と云うのだそうだ、それは死者が地獄に行つて倒懸の刑を受けるのを救つてやるために設けた祭儀で三寳に供用し苦を免れしむる法會である、これはもと印度にあつた習慣をお釋迦様が採り入れたものとも云われて居る、その因縁は「佛說盂蘭盆經」に、目蓮尊者が亡き母に孝養しようと天眼通をもつて母の様子を見たところ母は餓鬼道におちて、やせ衰へ、赤鬼青鬼にせめかこまれて居たので、尊者は御飯を盛つて膳を差し上げると忽ち其の膳から火を発して食べることが出來ない、尊者は悲しんでお釋迦様のもとに到りその由を告げて教を乞うたのである、するとお釋迦様は「それはお前の母は罪業が深くてとてもお前一人の力ではどうする事も出來ない、そこで幸い七月十五日は衆僧が丁度安居を終つて、自恣の式の日だから」此の日に衆僧のために飲食、百味、五菓を備えて供養し十方衆僧の力をかりる事にするがよい、そうすれば過去七世の父母及び現世の父母にいたるまで、餓鬼の苦をまぬがれる事が出來るであろう」と教えてくれた、そこで目蓮尊者はさつそく其の教示の通りに實行して母の苦を救うことが出來たという

わが國では、斎明天皇の三年七月十五日に始めて盂蘭盆會が修行されてから、次第に盛んになり、殊にわが國民性の孝道と一致するところから、廣く國中に修行せられて今日に至つて居る

この日は死者のために精靈棚を造り、種々のものを供え心淨めて祖先の靈を迎える、またお寺様の方では壇家を廻り讀經、說教、また經文の解説などをして家中の者の信仰を高め佛道に精進する様に仕向ける

眞宗などでは盂蘭盆會を特に歡喜会と云つて祖先の恩を追憶し、専心に佛恩の深きを念じて、厚く三寶に歸依、供養をする法會になつているそうだ

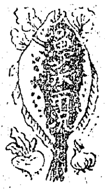
昔支那でも盂蘭盆を祭つた例はあるが、ながくなるから書くのをやめる

天氣　25日

【今晩】所によつて大雨があり多い所は三〇ミリ位降る
【明日】朝の内は曇り日中は晴間が出る、明後日から天氣が下り坂になる模様
【海上】東海沖に低氣壓が生じているため風波がある、尚この低氣壓が今晩關東及び本縣南部を通り沖合へ出るため海上陸上共に「シケ」ぎみとなつている

地震

昨晩の地震は發震時間午後十時十二分、震源地は千葉縣北部、震度は小名濱輕震であつた最大振巾一三二ミクロン總震時間は五分間であつた



25日

（小名浜青果物市場）

馬鈴署	三〇—四五圓
甘諸	七〇—九〇圓
ずいき	二〇圓
なす	六六—七五圓
とまと	三五—一〇〇圓
ごぼう	八五—一一五圓
きうり	三五—五五圓
生芽	一七五—一八〇圓

（小名濱魚市場）

はも	三〇〇圓
まこ	五〇〇圓
まこ小もの	二〇〇圓
むし	二〇〇—二六〇圓
かすぺ	一三〇圓
たこ	一七五圓
いか	一三〇圓
ほうぼう	二三五圓
あじ	一四〇—三二〇圓
さば	一〇〇—一三〇圓
かます	二五〇圓
ひらめ	六五〇圓

磐城座お盆特別興行名畫祭
—26日より28日迄3日間—

午前8時ヨリ早朝興行（モーニングシヨウ）
國際的名優早川雪州十三年振りに日本へ歸朝しての第一回主演作品
山田五十鈴・京マチ子・二本柳寛共演
大映京都作品 再上映
遥かなり母の國
日本人街の狼と呼ばれた無法者を目覺めさせた大なる愛情とは何か　日米兩國に跨る雄大な構想の下に繰り展げられる激情と愛の物語
入場料 大人20圓 小人4圓90錢 特別サービス

正12時ヨリ夜迄通し上映
スタア、ゲイル・ラセル、サブウ、アルバートＳ・ロージユル
アメリカ コロンビア映畫
ジヤングルの王
猛虎の襲撃、ジヤングルに伏して王位を狙う不敵の王子が美貌の王女をめぐる血闘、インドにくりひろげるスリルと冒險とロマンスの巨篇
入場料 大人50圓 小人30圓

夜9時ヨリ（ナイトシヨウ）
東寳映畫の世界的水準の豪笑篇　笠置シズ子・柳家金語樓・岸井明・森川信・花菱アチヤコ・相馬千恵子
大岡政談
將軍は夜踊る
江戸八百八丁でんぐりかへつた大騒ぎ 踊る神様大繁昌 だけど怪しいその踊り、そこで名奉行越前が乘り出して、歴史に殘る大捕物
入場料 大人小人共30圓